Title: Tactile textures and their phonetic representations

「触れる感覚の物差し」としての言葉

～触覚の質感とその音声表象～

どんな研究？

気持ちの良いものから嫌なものまで、世の中には多彩な質感を持つ手触りが存在します。しかし、これまで複雑な質感を評価する手法がありませんでした。本研究ではオノマトペ（擬音語・擬態語の総称）に着目し、触覚の質感の関係性をオノマトペの二次元分布図として可視化しました。

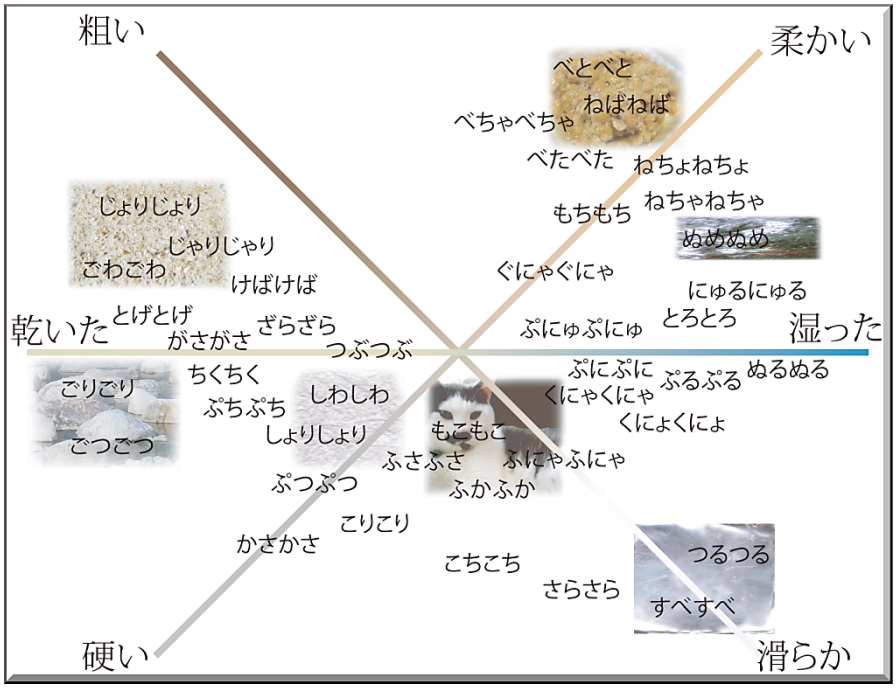
どこが凄い？

オノマトペの分布図は、日本語がどのように触覚の質感を分類しているのか、その関係性を空間的に表した質感の地図といえます。この地図を利用することで、手触りをより繊細に人に伝えたり、複数の質感の関係性を触感の軸に沿って考えたりすることができます。

どんな風に役立つ？

触覚の質感やそれに対する快不快は個人よって大きく異なりますがそれを空間の関係性としてわかりやすく議論することができます。また、将来的には質感を正確に伝えるための枠組み作りや、質感を組み合わせる設計理論の構築に貢献できると考えています。

人間は、言葉によって感覚入力を分類しており、その分類を考える上で言葉は一つの重要な指標となります。特に、オノマトペ（擬音語・擬態語）はマンガや文学だけでなく、日常生活における感覚伝達手段（感覚の物差し）として広く使用されています。そこで、オノマトペを手掛かりに触感の質感の分類を調べ、触覚を伝達・組み合わせる枠組みを構築していきます。



語の持つ印象に合わせてオノマトペを空間的に配置した図と
それぞれのオノマトペの印象に対応する素材例

関連文献

[1] 渡邊淳司, 加納有梨紗, 清水祐一郎, 坂本真樹 “触感覚の快・不快とその手触りを表象するオノマトペの音韻の関係性” VR論16(3), pp. 367-370, 2011.
[2] 早川智彦, 松井茂, 渡邊淳司 “オノマトペを利用した触り心地の分類手法” VR論 15(3), pp. 487-490, 2010.

連 絡 先

渡邊淳司 (Junji Watanabe)　人間情報研究部感覚情動グループ
E-mail： watanabe.junji{at}lab.ntt.co.jp（{at}の部分を@に置き換えてください）